

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階 実施段階)

74

福岡県立八女高等学校長 印

その1

学校経営計画 (4 月)		評価 (3 月)			
学校教育目標	「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げて社会に貢献する有為な人間を育成する。 ①目指す生徒像・・・豊かな心と逞しく生きる力を備えた生徒 ②目指す教師像・・・生徒のよさを見出し伸ばすことのできる教師 (能力、適性、可能性、性格 等々)				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
学校教育目標を『「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げて社会に貢献する有意な人間を育成する。』とし、四年が経過した。昨年度も、全職員の共通理解のもと年度重点目標をほぼ達成することができた。本年度も、引き続き全職員が総力を挙げ教育活動に邁進することによって地域の雄たる八女高のさらなる発展をめざし、魅力ある学校づくりを推進する。	(1) 百十年を超える歴史と伝統のもと、師弟同行の精神で厳しくも親身な指導を実践する	魅力ある学校づくりを更に推進し、これからの社会の変化に対応した教育システムの改革を検討する。			
	(2) 「文武両道」の校是のもと、基本的な生活習慣を確立し自己管理能力を育む。	「学習と生活の記録」をもとに、生徒に自己管理及びスケジュール管理能力を構築させ、自学・自習力の育成に努める。			
	(3) 基礎・基本を定着させ、常に「なぜ学ぶのか」を問い、意欲的に学ぶ態度を涵養する。	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る工夫を行うとともに「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング型授業)の実践・研究を行う。			
	(4) 自分自身を尊重するとともに、様々な場面での「気づき」を大切に、「利他の精神」や「感謝の心」を育む	観点別評価とカリキュラム・マネジメントの実践と検証を行う。			
	(5) 個に応じた指導を充実させ、一人ひとりの適性や能力を伸ばし、未来を拓くキャリア教育を推進する	入学志願者数(志願倍率1.3倍)の確保するために本校教育活動及び生徒の真の姿を、小・中学校、学習塾、地域へPRする。			
	(6) 学校・家庭・地域の連携を強化し、小・中学校へ積極的に本校教育活動の広報を行う	「明るく・元気で・きれいな学校」づくりを推進する。			
評価項目	体的目	具体的方策	評価 (3 月)	次年度の主な課題	
教科指導 (校内研修)	校内における各研修と授業研究を推進する。	本校の教育目標、各分掌の重点目標を達成するために必要な研修を実施し、指導力の向上を図る。 主体的・対話的で深い学びとICT活用の視点からの学習過程の改善を推進する。研究授業の指導案、研究協議については研究紀要に掲載し、さらなる授業改善に生かす。	A A	A	・1学期に3回、2学期に2回の研修会を実施した。次年度も現代の教育事情と本校の現状に即した有意義な研修会を実施する。 ・趣旨に沿った研究授業を期限内に実施してもらい、参観、研究協議を通して、学校全体の教育力向上を目指す。 ・下校時間が守れていないことがあるため、部活動での指導を引き続き行っていく。 ・「学習と生活の実態調査」を年5回実施した。1・2年生の学習時間が課題である。調査の仕方を改善し、学習習慣が定着していない生徒への個別面談等が行いやすいようにしていく。 ・学習習慣が定着していない生徒は、考査集中期間を有効に使えていないようである。考査期間中の学習時間について、個別に指導していく。 ・「学力向上指導」と「成績向上保護者会」を計画通り行い、成績不振者に対して単位修得に向けた学習を促すことができた。
	家庭学習を質・量ともに充実させ、「質の高い文武両道」を実践させる。	学校生活を通して基本的な生活習慣を身につけさせ、下校時間を厳守させることで家庭学習時間の確保を図り、質の高い文武両道を目指す。 家庭学習時間について、平日は1・2年生150分、3年生200分以上、休日は1・2年生300分、3年生400分以上を達成させる。 定期考査一週間前を「考査集中期間」とし、考査準備に専念させる。	B B B		
		学期評点で欠点を保有する生徒に対しては、「学力向上指導」を行い、該当学期の学習内容の補充を行う。また、学業成績不振者及び保護者に対する「成績向上保護者会」を、年2回(1・2年は11月と2月、3年は9月と11月)開催して、生徒全員の全単位修得を目指す。	A		

	生徒の実態に応じた評価方法及びカリキュラムの検討を行う。	観点別評価を実施し、指導と評価の一体化を図って、授業や学習指導の改善につなげる。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から始まった観点別評価をさらに改善することができた。今後は、観点別評価導入前後の変化などを検証していく必要がある。 ・「教育課程検討委員会」については、各教科からの要望を集約する会議を実施した。現在、カリキュラム策定に向け準備している段階である。 ・コース説明会については予定通り実施し、コース選択について理解させることができた。
		「教育課程検討委員会」を実施し、学習指導要領改訂を見据え、本校生徒に応じたカリキュラムを検討する。	C			
		コース説明会を2回実施して、生徒の希望進路の実現を目指す。（1学期は生徒のみ、2学期は生徒および保護者）	A			
	幅広い学力の生徒に対応した「できる」授業を実践する。	学習方法のガイダンスや定期考査に向けた指導を各教科で連携して行い、定期考査の学習が真の学力向上につながるように授業を充実させる。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で打合せなどを綿密に行い、充実した授業を行うことができた。学力差の拡大への対応が課題である。 ・ICT教室等は毎日よく活用されている。「主体的・対話的で深い学び」についても、授業形態などを工夫して行っている先生が多くみられる。 ・躰指導については、担任及び教科担当等から適切に指導し、緊張感を保つことができた。
		タブレットや電子黒板等のICT環境の整備や授業支援を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開を学校全体で推進する。	A			
		教室の環境整備（後方棚の整理等）、授業開始時の躰指導（服装・挨拶等）を徹底することで、緊張感のある授業を行う。	B			
	1年間出席皆勤生徒7割以上を達成させる。	出席皆勤を奨励し、年度末に表彰する。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より無欠席率が低下してしまっている。学校全体で出席皆勤への意識を高める指導を継続する。 ・二者面談により、担任が生徒の状況を把握し、適切な指導をすることができた。次年度からは十分に期間を確保できるよう工夫していく。
		各学期（1・2学期）の二者面談期間を充実させ、生徒への適切な指導を行うとともに、月毎に出席簿の点検及び出欠統計一覧を作成し、課題を抱える生徒への早期対応に努める。	A			
	広報活動を活性化し、入学者選抜の倍率1.3倍以上を達成させる。	中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、本校の広報活動に努める。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問により、多くの中学校に対し本校をアピールした。 ・塾対象説明会を行い、8校(11名)の参加があった。また8月には塾主催の説明会に参加し、中学生や保護者に本校の実態や良さを十分理解してもらった。 ・体験入学を2回実施した。第2回では、第1回体験入学に参加できなかった中学生に多く来てもらうことができた。アンケートの結果からも好評であったことが伺えた。
		塾に向いたり、塾関係者を招いたりして、本校に対する理解を深めてもらう。	A			
		学校開放を奨励し、中学生体験入学の内容をさらに充実させ、中学生・保護者に対し、本校教育活動への理解を図る。	A			
	生徒指導	安全管理ならびに交通安全の意識の高揚を図る。	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して、それぞれの指導を行い安全意識の高揚を図る。	B		A
携帯電話の使用について、校内外におけるルールやマナーの遵守、緊急時の対応等、自ら考え行動をとることができる生徒の育成に努める。			B			
部活動顧問における監督の徹底を図り、事故やケガの防止や早期対応に努める。			A			
不審者情報の速やかな提供等、危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。			A			
「質実剛健」の校訓のもと、自ら考え、主体的に行動する力を持つ生徒を育成する。		日々の授業や清掃活動に真摯な態度で臨ませることにより、謙虚・感謝の心を育成する。	A	A		
		「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。	B			
		「奉仕活動」等の体験活動やいじめについてのホームルーム等を通して、相手の立場や気持ちを尊重させ、一人ひとりを大切にする思いやりの心を育成する。	A			
		全職員で共通認識のもと、服装・頭髪等の指導を行い、「質素・清潔・端正」な身だしなみに努める自律の心を持った生徒を育成する。	B			
					A	

	<p>八女高校に誇りを持ち、謙虚・感謝・思いやり・自律の心を持つ生徒を育成する。</p>	<p>「非行防止教室」や日頃のホームルーム・集会等の教育活動を通して規範意識を向上させ、ルールやマナーの大切さを理解して主体的に行動できる生徒を育成する。</p> <p>生徒会活動・各種委員会活動の充実を図り、生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加することにより、自主・自立の精神を涵養する。</p> <p>基本的な生活習慣を身に付け、下校時間の厳守により家庭学習時間の確保を図り、質の高い文武両道を目指す。</p> <p>部活動加入率90%以上を目指すとともに、各活動を通して生徒の自己指導能力を育み、人間形成を図る。また、退部者の情報を共有し早期の対応に努める。</p> <p>各部活動等による上位入賞を目指す。3部活で全国大会出場、5部活で九州大会出場、12部活で県大会出場を目指す。</p> <p>全職員で情報を共有し、連携して統一した指導を行うことで、校内外における問題行動「0」を目指す。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>A</p>	<p>・生徒はルールやマナーの大切さを分かっており、自分の身にふりかかる点も理解しているが、万が一のないように継続して注意していく必要がある。</p> <p>・各委員会の充実を図り、生徒もより一層エネルギーに行事に参加することができるように、その方法を考えていきたい。</p> <p>・引き続き下校時間を守ることや、意欲的な学校生活を送ることができるような働きかけを行っていきたい。</p> <p>・部活動の指導の中で、自信と横柄さを区別することができるように、謙虚さも身に付けさせていきたい。</p> <p>・これからも情報の共有については、意識して取り組んでいきたい。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>生徒の社会性・自己肯定感を高めるとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。</p> <p>課外・講座・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。</p> <p>模擬試験や英語検定民間試験を十分に活用し、習熟度や進路に応じた指導を通して、生徒の第1希望進路の実現を目指す。</p>	<p>「進路講演会」や「出前講座」、「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させることで進路意識を高める。</p> <p>各学期1回の進路希望調査を行うことで、生徒の進路希望を的確に把握する。</p> <p>進路だより「とびかた」や集会での講話等を通じて、自分のあり方を見つめさせるとともに、進路意識の高揚を図る。</p> <p>「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」についてはキャリア教育の視点から、主体的に自分の進路を考えさせるため、3年間を見通した系統的な内容で実施する。</p> <p>大学受験・公務員試験等の入試・模擬試験に対応できる課外授業・講座等を実施することで、生徒の希望進路実現を図る。</p> <p>朝課外は「5分前行動」の大切さを学年と連携して指導することで、7時40分(5分前)教室入室の徹底を図る。</p> <p>入試の多様化・公務員試験に対応した課外授業・土曜セミナー等を実施する。</p> <p>国公立大100名以上、公務員コース全員の合格を目指す。(九州大以上の難関国立大合格者10名以上、国公立大の推薦入試での合格者15名以上)</p> <p>進学模試の偏差値については、3(5)教科総合において、1・2年は国公立大合格の目安である進研模試54以上に各学年100名以上、3年は50以上に100名以上を目指し、下位層(偏差値50未満)を50名以下に減らす。1・2年の習熟クラスについては、3(5)教科総合で平均偏差値63を目標とする。</p> <p>生徒の学力向上を図るためのPDCAサイクルを構築する。具体策として、スタディーサポート・模擬試験の分析、振り返り、授業・家庭学習の中での実践、模擬試験の受験というサイクルを実施することで、学校全体や生徒個人の課題を共有・分析し、生徒の進路指導の改善を図る。</p> <p>模試分析の方法を変更し、教科が協調して迅速に対策を講じられるようにする。</p> <p>習熟度別クラスの特性を最大限活かし、講話等を通して九州大以上の志望者を増やすなど高い志をもった生徒を育成する。</p> <p>各学年に対して、入試制度変更に伴う希望制による模擬試験等の実施を推奨する。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・「出前講座」は大学側と連携が上手く取れ、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。「マナー講座」等の他の行事も計画的に実施でき、生徒の進路意識向上の一助となった。来年度は早期に1年生にガイダンスを行い、進路に対する知識・意識の向上を図る。</p> <p>・集会において進路意識を高める話ができており、意識の高揚に繋がっている。進路決定状況を「とびかた」に掲載しているが、紙媒体だけではなく、学校HPに載せるなどの工夫を行っていく。</p> <p>・2年生で地域研究「地域協創プロジェクト」を本年度、先行実施した。来年度1年次より系統的な内容で進路探究を行い、2学年では文化発表会で「地域協創プロジェクト」を発表する。</p> <p>・来年度は、課外、土曜セミナー、長期休業中補習について、年間を通じた計画を打ち出し、見通しを持った指導ができるようにしていく。また、習熟クラスにおいて「ハイレベル」講座を実施し、九大以上の難関大学合格10名以上を目指していく。</p> <p>・2年生12月の土曜セミナーにおいて、公務員対策講座を行った。来年度は2年次3学期課外から公務員課外を立ち上げ、早期対策を行っていく。</p> <p>・国公立大推薦入試合格者は2名であった(センター試験を課さない形態)。今後は、2年次の「地域協創プロジェクト」を充実させ、国公立推薦入試受験者を増やし、合格者増加に繋げていく。公務員は国家一般に1名、税務職3名、福岡県職4名、筑後市職1名、福岡県警4名など、素晴らしい成績を残した。</p> <p>・本校生徒の課題として、家庭学習時間の短さ(家庭学習時間が定着していない)があげられる。教務課と連携し、生徒自身による考査・模試の分析・振り返り、学習計画の立案、授業・家庭学習の中での実践、考査・模試の受験というサイクルを実施・定着させることで、苦手分野の克服、成績の向上、第一進路希望の実現につなげていきたい。</p> <p>・模試分析の方法を改め、各教科で生徒に対して直接分析内容を提示するようにした。今後は、学年全体での模試分析・振り返りができていないため、キャリア教育課として分析を行い、学年全体の問題点を共有し、生徒への振り返りに活用していく。</p>

保健	生徒の心身の健康の保持増進を図る。	日常的な健康観察と、主な行事前の保健調査の実施で心身の健康状態の把握を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察から「気になる生徒」の心身の健康状態を把握し、関係職員と連携を図る。 ・感染症拡大防止のための活動を継続して行う。 ・教育相談委員会の時間を確保するために、授業時間内に設定する。「気になる生徒」については、ケース会議や教育相談会でのSCの活用を検討する。カウンセリング希望者が多く、相談時間が1人20分程度になっているため、十分な効果が得られていない。さらに保護者の相談も増えており、回数の増加を検討する必要がある。 ・熱中症予防の講演会を実施した。講演会のテーマを統一のものではなくして、さまざまな視点からアプローチして生徒の自己管理能力の向上を図る必要がある。
		健康観察をもとに、個への対応と感染症等拡大の予防や対策を図る。	B		
		教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」に関する情報を共有する。	B		
		教育相談を計画的に実施し、生徒・保護者・教員の悩みに対応する。	B		
		健康診断や教育相談の結果を受け、保護者及び関係専門機関と連携し対応する。	A		
		健康教育講演会を実施し、生徒自身の自己管理能力の向上を図る。	A		
	学校安全及び環境衛生の整備を行う。	生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。	B	B	
		学校管理下での災害状況を全職員に提示し、防止に役立てる。	B		
		日常の安全・衛生面の点検・検査及び改善を適切に行う。	B		
		学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生の整備に努める。	A		
		生徒保健委員会活動に主体的に取り組みせ、文化発表会等で成果を発表させる。	A		
		保健だよりや掲示物を充実させ、タイムリーな情報を発信する。	B		
	美化活動の充実	美化委員会による活動を機能的に行い、全校生徒の主体的な美化活動を推進する。	B	B	
		「美化充実期間」では、清掃状況についての評価を伝え、美化意識の高揚を図る。	B		
		学校行事前後には清掃活動を強化し、校舎内外の精美を保持する。	B		
		ゴミ捨て場での点検により、ゴミの分別を徹底させるとともに減量化を図る。	A		
		「心を磨くトイレ掃除」研修会を計画・実施し、謙虚・感謝の心を育む。	A		
				<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事前後において、もう少し美化委員に活動の場を与え、美化意識を向上させる。 ・事務の協力を得て、非常にきれいなゴミ捨て場を維持している。 ・「心を磨くトイレ掃除」研修会を実施した。第1回は生徒176名、職員18名の参加があった。生徒の「参加して充実感を得た」という感想から、教育効果が大きいことがわかったので、次年度も継続して行う。第2回に向けて計画的に準備し、地域の方々との連携を図っていく。 	

企画広報	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対し、積極的に、スピーディな広報活動を行い、魅力的な八女高の姿を発信していく。	情報管理担当者との連携のもと、ホームページを随時更新する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや緊急メールは、情報管理担当の職員に依頼し計画通りに実施できた。次年度は、課内で年間計画や掲載内容の詳細に関わる必要がある。 ・学校生活の場面ごとに生徒の表情を撮影し、行事の記録も残すことができた。 ・関係職員と情報を共有しながら撮影計画をさらに綿密に立て、広報の土台になる素材量を増やすとともに、画像データを精選して保存し、編集業務に割く労力をできるだけ軽減したい。 ・学校紹介DVDにおいては、今後も部活動や卒業生、在校生の姿を伝え、本校の良さを表現していきたい。 ・八女高だより、ポスターカレンダー、立て看板などは、ほぼ予定通り実施し、近隣地域・中学校・同窓会支部に発信できた。今後、発信の範囲を広げられるよう検討したい。 ・生徒募集に関わる業務については、年度当初より、その方向性について意志統一が必要である。
		年間を通して、学校内外の生徒の活動に密着し、八女高生徒の魅力を記録し、配信する。	B		
		2学期内に次年度用の学校紹介DVDを作成し、生徒募集につなげる。	B		
		部活動や学校生活など様々な場面における本校生徒の魅力的な姿を記録する。	A		
		「八女高だより」の内容を精選し、校外配信を広げる。（年5回発行）	A		
		校内掲示板を有効活用し、生徒の意識高揚につなげる。	B		
		八女高ブランドを発信できる「八女高ポスターカレンダー」を年に2回（6月、12月）作成・配付し、生徒募集につなげる。	A		
		立て看板・横断幕などの効果的な活用を行う。	A		
		学校行事等を外部に発信する機会を増やすため、新聞社等への取材依頼を行う。	A		
		各分掌と教職員の連携を図りながら、活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを緊密にし、学校行事等を計画、実施する。		
月行事予定表を毎月15日に配付（2ヶ月分）し、職員・生徒の有効な活用を促す。	A				
PTA各委員会の会議や活動に全職員が参加し、PTA活動をより充実したものにするとともに保護者との交流に努める。	A				
職員室の整理整頓を促し、教職員の働きやすい環境作りに努める。	B				
月当番を決定し、親交会行事運営の支援を行い、職員間の親睦を深める運営を行う。	B				
情報管理	校内のデータ及び情報機器データベースの管理を徹底する。	情報管理の業務をマニュアル化し、成績処理等が円滑にできるように改善する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページからの欠席連絡の処理など新しい業務も発生したが、手順をマニュアル化することができた。 ・データベースの更新等についても、計画通りに実施できた。
		マスターデータをデータベース化し定期的な更新を行うことで、正確に資料提供する。	A		
		県統一の情報機器データベースを確実に更新し、管理する。	A		

1 学年経営	八女高生としての基本的な生活習慣を確立させ、社会性を育成する。	自立と協働を学ぶ体験活動や大運動会などの学校行事を通して、校訓である「質実剛健」にふさわしい生活ができるよう指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事を通して、各自の役割を果たすなど、十分な成果があった。 ・2学期現在で、出席皆勤率が60.9%であった。欠席が多い生徒には継続して声掛けを行う。 ・7時40分登校ができていない生徒が見受けられた。挨拶を含め、学校生活の改善を継続して指導していく。 ・部活動加入率が目標数値より下がった。学校行事等に積極的に関わられるように指導していく。 ・清掃活動は概ね良好であったが、休日の教室の使用マナーが守れていない生徒が若干見受けられた。 ・生徒の態度・感想文等から学年集会や立志講座を通して心の成長を見ることができた。
		生活のリズムを確立させ、健康管理への意識を高めさせることにより、出席皆勤率70%以上を目指す。	B		
		5分前行動を定着させるとともに、心のこもった挨拶や校門一礼、場に適した言葉遣いができるよう指導する。	B		
		幅広い人間関係を構築し、社会性を育むために部活動の加入を促進し、部活動加入率90%以上を目指す。	B		
		公共の場のルール・マナーを順守させるとともに、学習環境を整え、率先して清掃活動に取り組むよう指導する。	A		
		学年集会で先生方からの講話や「立志講座」を行い、社会性の育成に繋げる。	A		
	進路実現のために意識を向上させ、基礎学力の定着を図る。	「総合的な探究の時間」などを通して、進路意識を高めさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実施できており、生徒の進路意識の向上に繋がった。 ・上位層と下位層の学力差が大きいですが、プリント等で工夫しながら授業を行った。 ・国語・英語・地歴科で課題を発表するなど、多くの教科思考力・表現力を育む活動に取り組んだ。 ・課題の提出状況は概ね良好であった。部活動生の中で学習習慣が定着していない生徒には継続して指導していく。 ・模試分析を行い、課外・土セミ等で補充した結果、3教科総合で偏差値54以上が73名（7月は59名）、52以上が109名（7月は87名）であった。 ・不登校及び学校生活・学習に対する意欲が低い生徒に対する指導を丁寧に行っていく必要がある。
		習熟度別クラス編成のメリットを活かし、各教科で連絡を密にしながら上位層と下位層の双方の学力を伸ばす授業を行う。	B		
		思考力・表現力などを育むために指導内容の見直しを図り、学力向上に繋げる。	A		
		家庭学習時間を確保し、課題を自分の力でやり遂げる習慣を身につけさせ、提出期限を順守させる。	B		
進研模試3教科総合で偏差値54以上100名以上、偏差値50未満50名以下を目標とする。また、習熟度クラスは3教科総合で平均点偏差値63を目標とする。		B			
成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、十分な指導を行う。	A				
生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る。	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で生徒理解に努め、保護者との連絡も密に取れており、信頼の構築はできたと思われる。 ・担任だけでなく、保健室も含めて学年全体で取り組むことができた。 	
	学年と教科担当者と保健室の連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。	A			
2 学年経営	心の教育を行い、八女高のリーダーとして自覚ある行動をさせる。	八女高の中軸の学年であることを理解させ、学校行事に責任を持って積極的に取り組み、充実感・達成感を持たせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、文化発表会実行委員など積極的に取り組む姿勢が見られ、自覚や誇りをもって活動することができた。 ・部活動では、リーダーとしての自覚と責任を持ち、色々な問題や悩みを解決できるよう努力している生徒が多い。 ・生徒会・応援団を中心に学年集会の整列や司会進行を行い、積極的にリーダーシップを発揮することができている。 ・チャレンジすることの素晴らしさを理解し、意識や志を高く持って様々な活動に積極的に参加する生徒が増加した。今後も、志を高く持たせるようにする。 ・養志講座では、講演を真摯な態度で聞き、行動を変えようとする努力が見られ、意義あるものとなった。 ・意欲的に清掃活動に取り組む生徒が多い。さらに、自ら気づき工夫して清掃できるように指導する。 ・多くの生徒が優しい心を有している。他者とのかわりの中で、さらに視野を広げることができるように指導する。
		部活動の中軸として、先輩・後輩との人間関係を築かせ、八女高の伝統を受け継ぎ、リーダーとして活動を充実させる。	A		
		学年集会・HR等において、生徒が主体的に活動する場を作りリーダーシップを養う。	A		
		「知の創造塾」「次世代リーダー養成塾」「東京研修」「実行委員（大運動会・文化発表会）」などへの参加を促し、リーダーとしての意識や志を高く持たせる。	A		
		養志講座や先生方からの講話（学年集会・学年通信等）を実施して、心の教育を行う。	B		
		清掃活動を通して、奉仕の心を育成するとともに、学習環境を整備し落ち着いた学校生活を送らせる。	B		
		自分に関わるすべての人に感謝し、他人を思いやる優しい心を育成する。	B		

	学習習慣の定着と基礎学力の向上を図るとともに、応用力も身につけさせる	思考力・判断力・表現力等を育成するため、指導内容・指導方法の工夫を図り、授業改善（アクティブラーニング・ICTの活用など）を行う。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の先生方の創意工夫により効果的な授業が展開されている。また、総学でもiPadを利用して学習できた。今後も継続して授業改善に積極的に取り組んでいく。 習熟クラスの授業内容の工夫や定期考査前の補講などを実施できた。今後、内容の精選を行い、上位者の添削指導など効果的な指導を実施していきたい。 学年・分掌・教科で連携を図り、最新の情報を入手して、学年集会やHRにおいて適切なタイミングで伝えることができた。進路目標も明確になった生徒が増加した。 家庭学習時間調査の第1回～第4回の平均が162.9分で目標に30分程度足りていない。携帯電話の使用時間が過年度比較で増加していることが課題である。 11月進研模試3教科総合で、偏差値54以上94名、50未満92名で上位と下位の差が大きいことが課題である。 各教科で生徒の負担が大きくなるように課題を提示できている。今後、全員同じ課題ではなく習熟に応じた課題の提示ができるように工夫する。
		学力に応じた（習熟度別クラス等）学習指導を継続的に行い、基礎基本の定着を図るとともに、応用力も身につけさせる。	A			
		HR・学年集会・個人面談で大学入試改革の情報を的確に伝え、進路目標を明確にすることで、学習意欲を向上させる。	A			
		学習時間調査を元に家庭学習状況と生活状況・健康状態を把握する。家庭学習時間は、平日150分、休日300分を目標とする。	B			
		進研模試3教科総合で、偏差値54以上100名以上、50未満50名以下を目指す。	B			
		教科内や他教科の担当者と連携を図り、実態に応じた計画的な課題を提示することでバランスが取れた学力を身につけさせる。	B			
八女高生としての基本的生活習慣を定着させる	八女高生としての生活リズムを確立させ、出席皆勤率70%以上を目標とする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 無欠席率61.8%で、2学期後半になり欠席が目立つようになってきた。今後、自己管理能力を高めるよう指導していく。 5分前行動、挨拶など多くの生徒がきちんとできているが、特定の一部の生徒ができていない。授業の挨拶、移動教室時の時間厳守などをきちんとさせる必要がある。 多くの生徒が高い規範意識で行動できているが、今後もルールやマナーを遵守する必要性について継続的に指導する。 クラス担任を中心に家庭と連携を図り、適宜面談も行い、生徒理解ができている。 学年で適切な情報共有ができおり、養護教諭や保護者とも連携を図り、組織的に対応できている。 		
	5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組ませるとともに、心のもった挨拶や校門一礼、場に適した言葉遣いができるように指導する。	B				
	ルール・マナー（時間・規則・期限・交通）の遵守指導や職員の一貫した服装頭髪の指導を継続して行い、規範意識・道徳的価値観を向上させる。	B				
	個人面談を充実させ、家庭との連携を十分に図り、規則正しい生活の定着を図る。	A				
	学校生活に適應できない生徒を早期に把握し、保護者や養護教諭と連携を図り、学年全体で情報を共有して適切な指導を行う。	A				
3 学年経営	進路実現に向けて、学力と意識の向上を図る。	最後まであきらめない姿勢のもと、全員の第1希望進路の実現を図る。国公立大学合格者100名以上、公務員コース全員の合格をめざす。（九州大学以上の難関大学合格10名以上、国公立大学の推薦・AO入試合格15名以上）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 推薦で2名合格と成果はあるものの、数値目標の達成は厳しいと思われる。現在の生徒の実態を見たときに、この目標の置き方には無理があるように感じる。 目標に対して出願が少なく、生徒の実力や進路希望先も踏まえて、もう少し教員側から働きかけるべきであった。またAOの場合も、活動実績等でのインパクトが弱く、3年間を見通して、ボランティアや校外活動に取り組ませていく必要がある。 二極化が進んでいるが、それでも結果的には上位層が薄く、中間層の底上げが改善できなかった。 全体的には概ね学習時間の確保はできており、先輩たちの時間の使い方など具体例を挙げて奨励することで継続して実行している生徒もいたが、自ら学ぶという姿勢については今一つ育てることができなかった。 必要な生徒に対して個別の指導は実施しているものの、力がついてきたが、二極化を改善するまでの成果は上げられなかった。時間の確保が難しい。 	
		進研模試において、5教科総合で偏差値50以上が100名以上、習熟クラスについては5教科総合での平均偏差値63以上をめざす。	C			
		自ら学ぶという姿勢を育て、進路実現を意識した学習と計画的な取組を行わせる。すきま時間の活用、登校学習、居残り学習を奨励し、平日200分、休日400分の学習時間を確保させる。	B			
		振り返りシートや自己採点用紙を利用して、即時のやり直しを徹底させるとともに、次回に向けては反省に基づいた具体的な数値目標を持たせて取り組ませる。	B			
		難関大学志望者に対しては添削・課題などの指導を行う。成績不振の生徒に対しては、担任および教科担当による二者面談等を通してのサポートとともに、考査前の補講等を実施する。	B			

人間性と社会性を高め、最高学年としての自覚を持った生活を送らせる。	大運動会をはじめとした学校行事に対しては、最高学年であることと自分の立場を自覚して、やるべきことに責任を持って取り組み、充実感と達成感を体感させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事には積極的に参加し、大運動会後も最高学年として行動を続けることができた。 ・多くの生徒が他者を思いやって行動するなど、状況を判断して適切な行動を取ることができているが、一部の生徒は配慮が足りないと感じる部分もある。 ・全体的に控え目で優しすぎるし、自己表現に遠慮がちである。争わないように過ごす姿勢が受験勉強にも表れており、生徒の中から切磋琢磨を促すような”勢い”が必要であった。 ・学習と生活の記録を通して、生徒の状況を知ることとともに、コメントを通してコミュニケーションのきっかけを作ることができ、有効だった。
	思いを共有し、想像と気づきを大切にして、周囲への配慮と感謝できる心をさらに育てる。	B		
	学校生活全体を通して、コミュニケーション能力とともに、生徒同士の切磋琢磨の意識を高め、礼儀、身だしなみ、時間厳守については、継続指導の中でさらなる人間的な成長を図る。	B		
	二者面談や日常の会話、学習の記録を通して、生徒の現状把握と信頼関係を確かなものにするとともに、保護者及び教員相互の共通認識のもと指導にあたる。	B		
受験生としての学習に臨む態勢の確立と環境の整備を図る。	受験生としての生活リズムの確立と定着を図るとともに、お互いの影響力を再認識させ、少々のことでは休まないという気概を持たせて、出席皆勤率「70%以上」を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の記録を記入することで、客観的に振り返ることができ、生活リズムが大きく崩れることはなかったものの、後半、遅刻・欠席する生徒が増えた。 ・出席皆勤率はクラスにより差があるが、学年平均は58%であった。 ・クラスを越えての情報の交換、共有、および担任と副担任や学年全体の連携はとれていた。 ・精神面などで問題が生じた時には、学年だけではなくもっと学校全体で対応するようすべきである。
	「集中と切り替え」を意識した生活を送りながら、部活動、学校行事での完全燃焼を図る。	A		
	問題や悩みを抱えた生徒のサポートについては、情報交換を学年で確実にやりながら学年全体で連携をとりながら統一した形で行っていく。	B		